

長崎県における研修医獲得と育成について

～教育マインドの熱い長崎で研修医を育てる～

医療教育開発センター 研修担当事務

仲野 智子

長崎大学病院 医療教育開発センター センター長・教授
長崎県医師臨床研修協議会（新・鳴滝塾） 事務局長

浜田 久之

長崎県における研修医獲得と育成について ～教育マインドの熱い長崎で研修医を育てる～

医療教育開発センター 研修担当事務

仲野 智子

長崎大学病院 医療教育開発センター センター長・教授
長崎県医師臨床研修協議会(新・鳴滝塾) 事務局長

浜田 久之

1 はじめに

今年、平成26年は「新医師臨床研修制度」が施行されて10年目を迎える節目の年です。長崎大学病院にとってこの10年間は、臨床研修プログラムの研修環境の充実を目指した整備に力を注いできた年月でした。新制度施行により、大学病院をめぐる環境は大きく変化しました。研修医の大都市圏への集中です。最西端の長崎県は医師育成の地としては非常に不利な立地になったのです。長崎大学出身の研修医を長崎に根付かせるため、また全国から研修医を呼び込むため、長崎県が一体となり、システムを構築していくことが求められるようになりました。

ここではあらためて、「新医師臨床研修制度」の目的を確認するとともに、マッチングシステムの現状について触れ、長崎県での臨床研修医獲得に向けた動きについてお話しいたします。

2 新医師臨床研修制度の光と影

平成16年に施行された新医師臨床研修制度の大きな目的は、「医師としての人格を涵養

すること」「プライマリ・ケアの基本的な診療能力の修得を目指すこと」「研修に専念できる環境を整備すること」などがあげられます。旧制度下では、地域医療との接点が少なかったため、「病気を診るが、人は診ない」と評されていました。また、給与や勤務時間などの待遇面が整っておらず、アルバイトをするために研修に専念できない状況であったことも問題視されていました。さらに、研修医の多くが出身大学の単一専門科で研修を受けており、専門診療科に偏ることについて懸念されたのです。一方で、医局制度下の教育での良い面について、軽視されたことも周知のとおりです。

新制度の導入で、診療に従事する医師は2年以上の臨床研修が必修となり、出身大学以外の臨床研修病院の指定を受けた病院での臨床研修が可能になりました。研修内容では専門外の診療科も診ることができる医師を育てるため、地域医療、内科、救急が必修化されました(当初は外科、小児科、産婦人科も必修でした)。また、2年間は研修に専念するためにアルバイトは認められなくなり、その

ため給与面での保証を受けられるようになりました。

しかし、新制度の導入により、研修医の都会への流出が起り、全国の大学病院同様、長崎大学病院においても、若手医師数が減少して、入局システムの危機的状況が発生しました。よって、地理的不利な条件を持っている長崎大学病院は、中央の研修病院に負けない優れたプログラムを作り、長崎大学医学部生が残りた病院、また県外大学に進んだ医学生が帰ってきたくなる魅力ある研修環境を創設する必要性が生じたのです。

3 長崎大学病院の臨床研修環境の6つの強化

そこで、長崎大学病院が取り組んだ環境づくりを大きく6つ取り上げました。

① 臨床研修プログラムの充実

基本となっているたすきがけ研修プログラム（初期研修のうち1年は長崎大学病院、もう1年は協力病院で研修する。参考資料1）をはじめ、2年間大学病院で研修するプログラム、長崎県内の臨床研修病院3院で研修するトライアングルコースのほか、早い段階か

らスペシャリストを目指すコース、大学院に通いながら研修を受けられるアカデミックコースなど多様なコースを揃えました。これにより、研修医一人ひとりが自分にあったオーダーメイドの研修プログラムを受けることができるようになりました。

② 指導力の強化

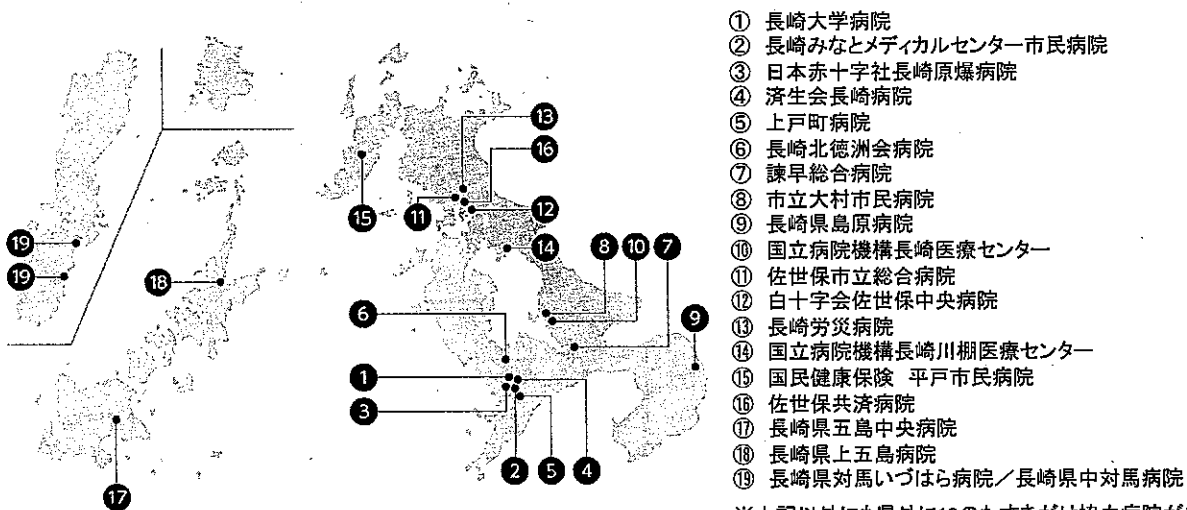
研修医の目標達成を支えるため、サポート体制を整えました。各診療科に厚生労働省認定指導医講習会を受講した熱い指導医を育て、日々の診療から細やかなフィードバックができるようにしました。

また、研修医教育専属部署である医療教育開発センターには8名の教員を置き、定期的に面談を実施。ポートフォリオを元にした研修状況の進捗確認など、二重三重のフォロー体制を整えました。

③ プライマリ・ケア教育の強化

大学病院の強みと弱みを分析して、弱みに関しては徹底的に改善してまいりました。例えば、全国の大学病院でネックとなっているプライマリ・ケア症例数についてです。研修医が求める症例数を獲得するため、平成24年から全国でもめずらしい「外来研修」を開始

参考資料1:長崎大学病院 県外のたすきがけ協力病院一覧(平成26年度)



- ① 長崎大学病院
- ② 長崎みなとメディカルセンター市民病院
- ③ 日本赤十字社長崎原爆病院
- ④ 済生会長崎病院
- ⑤ 上戸町病院
- ⑥ 長崎北徳洲会病院
- ⑦ 諫早総合病院
- ⑧ 市立大村市民病院
- ⑨ 長崎県島原病院
- ⑩ 国立病院機構長崎医療センター
- ⑪ 佐世保市立総合病院
- ⑫ 白十字会佐世保中央病院
- ⑬ 長崎労災病院
- ⑭ 国立病院機構長崎川棚医療センター
- ⑮ 国民健康保険 平戸市民病院
- ⑯ 佐世保共済病院
- ⑰ 長崎県五島中央病院
- ⑱ 長崎県上五島病院
- ⑲ 長崎県対馬いづはら病院/長崎県中对馬病院

※上記以外にも県外に12のたすきがけ協力病院があります。

生涯教育シリーズ

しました。研修医が1名ずつ担当の指導医とプライマリ・ケア協力病院へ行き、指導医が見守る中、自分の力で外来診療を行う研修です。これにより、市中病院と同じかそれ以上のプライマリ症例数が経験できるようになりました。

④ 地域研修の強化

長崎市医師会にお力添えをいただき、地域研修先を大幅に増やすことができました。地域研修病院には長崎市で30病院、長崎県全体では48病院（参考資料2）がご協力くださ

ております。輪番病院、開業医、診療科についてなど、各研修医の希望に応えられるようになりました。

⑤ 救急医療教育室の創設

さらに、今年度は研修医教育のための新しい部署、救急医療教育室を立ち上げました。長谷敦子教授を室長に迎え、初期・2次救急症例の指導を強化したのです。研修医は市中病院の輪番当直に指導医と一緒に入り、ファーストタッチから見るできるようになりました。大学病院で3次救急を経験す

参考資料2:長崎大学病院 地域医療研修先一覧(平成26年度)

【五島地区】

No.	名 称	住 所
1	長崎県上五島病院	南松浦郡上五島町青方郷1549-11
2	長崎県富江病院	五島市富江町狩立499
3	長崎県奈留医療センター	五島市奈留町浦1644
4	小値賀町国民健康保険診療所	北松浦郡小値賀町笛吹郷1757-8

【対馬地区】

5	長崎県中对馬病院	対馬市美津島町鶏知甲1304-1
6	長崎県対馬いづはら病院	対馬市厳原町東里303-1

【平戸地区】

7	平戸市民病院	平戸市草積町1125-12
8	平戸市立生月病院	平戸市生月町山田免2965

【佐世保地区】

9	長崎労災病院	佐世保市瀬戸越2-12-5
10	北松中央病院	佐世保市江迎町赤坂299
11	千住病院	佐世保市宮地町5-5
12	井上産科婦人科医院	佐世保市新田町707-5
13	佐世保市立総合病院宇久診療所	佐世保市宇久町平郷2344

【島原地区】

14	長崎県島原病院	島原市下川尻町7895
15	泉川病院	南島原市深江丁2405

【長崎市近郊】

(総合)

16	井上病院	長崎市宝町6-12
17	長崎みなとメディカルセンター市民病院	長崎市新地町6-39
18	長崎みなとメディカルセンター成人病センター	長崎市淵町20-5
19	日本海員救済会長崎病院	長崎市榊島町5-16
20	長崎市夜間急患センター	長崎市栄町2-22
21	国立病院機構長崎病院	長崎市桜木町6-41
22	長崎記念病院	長崎市深堀町1-11-54
23	十善会病院	長崎市籠町7-18
24	上戸町病院	長崎市上戸町4丁目2-20
25	済生会長崎病院	長崎市片淵2-5-1
26	長崎友愛病院	長崎市蚊焼町2314-1
27	長崎北病院	西彼杵郡時津町元村郷800

【長崎市近郊】

(内科系)

No.	名 称	住 所
28	長崎市立野母崎診療所	長崎市野母町2283-7
29	カリタス中央診療所	長崎市西出津132-1
30	新里クリニック浦上	長崎市茂里町3-20
31	宮崎内科医院	長崎市白鳥町3-12
32	諸熊内科医院	長崎市中園町11-22
33	長崎腎病院	長崎市興善町5-1
34	南長崎クリニック	長崎市松ヶ枝町3-20
35	白髭内科医院	長崎市片淵1-13-28
36	いとう内科医院	長崎市滑石4-5-8
37	晴海台クリニック	長崎市晴海台町43-5

(外科系)

38	奥平外科医院	長崎市梁川町4-15
39	出口外科医院	長崎市大浦町9-11
40	長谷川医院	長崎市京泊3-30-17

(小児科)

41	きのしたこどもクリニック	長崎市住吉町3-11
42	おおつかこども医院	長崎市滑石6-3-1
43	みやぞえ小児科医院	長崎市矢上町341
44	長崎県立こども医療福祉センター	諫早市永昌東町24-3

(耳鼻科)

45	重野耳鼻咽喉科	長崎市扇町1-21
----	---------	-----------

(産科婦人科)

46	三浦産婦人科医院	西彼杵郡時津町野田郷25-1
----	----------	----------------

(精神科)

47	田川療養所	長崎市錦2-1-1
48	道ノ尾病院	長崎市虹が丘町1-1

【県外】

49	公立みつぎ病院	広島県尾道市御調町市124
50	南相馬市立総合病院	福島県南相馬市原町区高見町2-54-6
51	公立相馬総合病院	福島県相馬市新沼字坪ヶ迫142

るので、本室ができたことで救急医療の大部分を網羅できました。

⑥ ハード面での強化

ハード面においては研修医室や仮眠室、全館無線LANを整備したほか、研修医専属の事務スタッフを駐在など、研修を滞りなく進めていくための環境作りを行っています。

4 長崎大学病院のマッチング推移

これらの改革が功を奏し、長崎大学病院のマッチング数は上がってきています。長崎大学病院の過去12年分のマッチング数・採用者数（参考資料3）を見ると、平成20年に38人と最少人数に陥ったものの、その後は徐々に回復。平成22年度からは50名以上に安定し、さらに伸びてきています。

今年度のマッチング者数は全国1015病院中で6位の65名でした。全国的に見ても、大変多いことがお分かりいただけるでしょう。常に研修医が求める意見を取り入れ、プログラムや環境に反映させてきたことが結実したものと考え、今後も時代に沿ったプログラム構成を考え、改善していききたいと引き締められているところです。

5 長崎大学病院が進める

「若人の集う病院づくり」

また、長崎大学病院が目指す医療人の育成システムでは、医師だけではなく歯科医師、看護師、薬剤師、コメディカルなどの人材育成も欠かせません。長崎大学病院は平成23年に総合的な人材育成を目指す組織『医療教育開発センター』を設立しました。同センターの設立の目的として次の3つの柱を打ち立てて、様々な事業を進めています。

① 全職員のキャリア開発の促進

若人の集う病院づくりを進めるために、医

療教育開発センターが全職種の若手職員の教育及びキャリア開発に積極的に関与していきます。また、平成29年の後期研修制度の改正に伴う専門医取得のためのプログラムを作成しております。

② 職種間教育の促進とチーム医療を推進

長崎大学病院は大きな組織の集合体であり、教育部門も縦割りの形成されているのが現状です。そこで、それらの組織を横の軸でつなぐことにより職種間の連携が促進させ、チーム医療の推進につなげていきます。現在、医師と看護師合同のオリエンテーションを行ったり、薬剤師を対象としてフィジカルアセスメントなどのセミナーを開催しています。

③ 地域の医療人教育の推進

長崎県全体の医療の発展のためには長崎大学病院のみならず、地域の医療人教育の質の向上が必要です。長崎大学病院が所有するシミュレーションセンターや機材を広く開放しているほか、院外の医療従事者が参加できるイベントを開催しています。

6 長崎県全体の医療人材を育成する新・鳴滝塾

しかし、長崎県全体の医療資源の充実を図るためには長崎大学病院だけではなくさらに大きな枠組みで考えていかなければいけません。多くの離島や遠隔地を持つ本県では、医師不足はもとより、地域や診療科における医師の偏在も課題になっております。

そこで平成22年7月に、県と県内17の初期臨床研修病院（※1）と連携し、研修医の確保や医師の能力・技術の向上を支援するための組織「長崎県医師臨床研修協議会（新・鳴滝塾）」を設立しました。

新・鳴滝塾は、県と病院が一体となって、

研修医の確保や医師のキャリア形成支援及び女性医師、看護師等の離職防止・復職支援の強化に取り組むことを目的としています。具体的な活動は、県内外で合同説明会を開催したり、長崎県で初期・後期研修、Iターン、Uターンを考えている研修医に向けて病院見学の補助金支給や、後期研修医には住宅補助などのサポートなどです。

高度医療や地域医療など、それぞれの研修病院が持つ得意分野を組み合わせることで、高レベルでかつ幅広い研修医の好みにあわせたプログラムをつくり、全国の学生に向けてPRしています。

将来的には、長崎、県央、県北の3地区それぞれに、医師・看護師等医療従事者の教育・研修や、キャリア形成のための支援を行

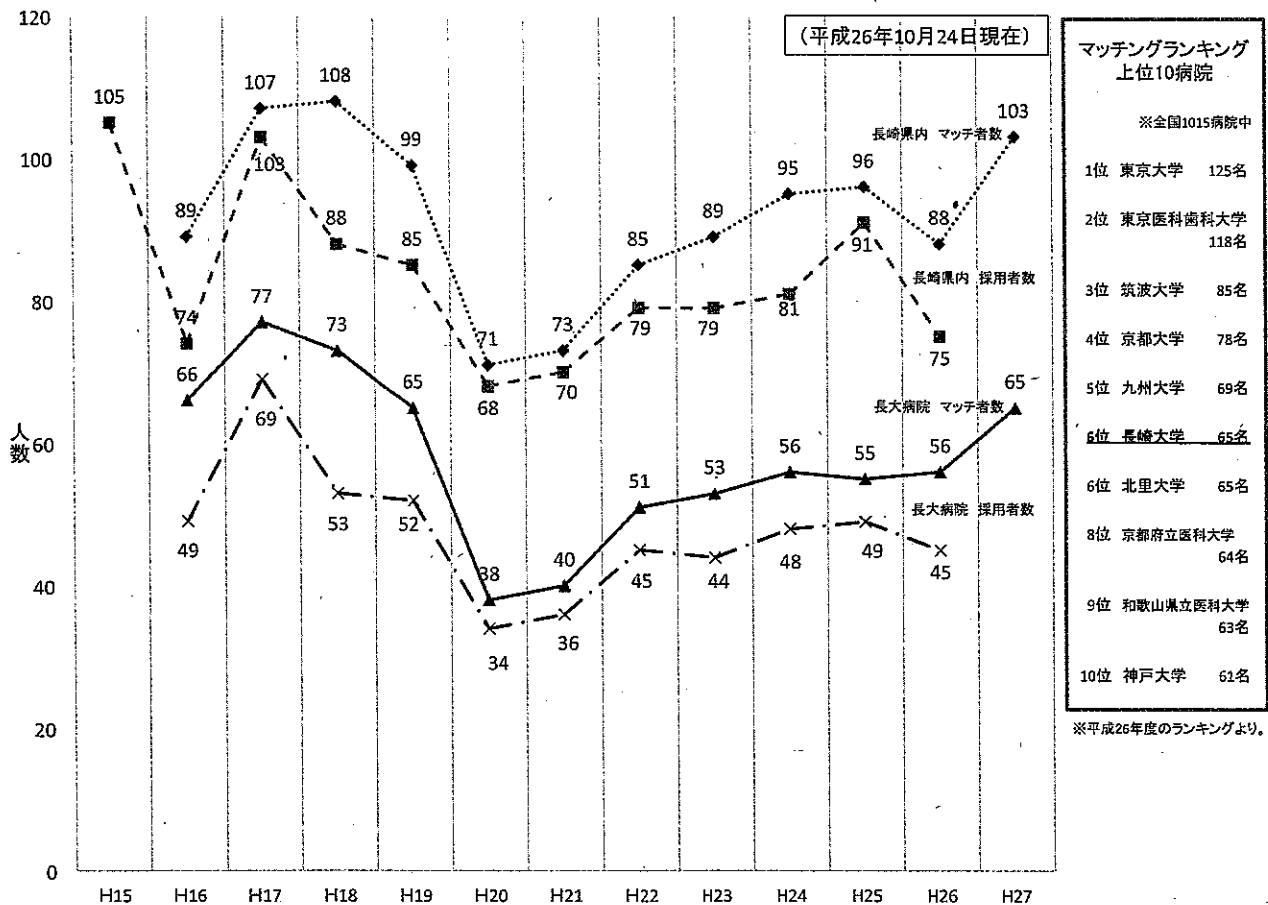
う地域医療研修センター（仮称）の設置を目指しています。

おかげさまで、長崎県で初期臨床研修を受ける研修医は年々増えており（参考資料3）、また卒後3年目の医師の受け入れについても多くの問い合わせをいただいております。

7 地域とともに育てる未来の医療人

ここまで研修医の受け入れについて様々な改革をお話してきました。しかし、研修医が最終的に長崎に根付いてくれている一番の理由は「長崎の土地が持つ伝統的に医師の教育マインドが熱い地盤」に魅力を感じているからだとは感じています。ある研修医に「なぜ長崎に決めたのか？」と聞くと、「街が気に入ったし、人の温かさに触れて、自分に合

参考資料3:長崎県内のマッチング・採用者数と長崎大学病院のマッチング・採用者数



うと思ったから」という返事が戻ってきました。実際、地域研修から帰ってきた研修医は、以前よりひと回りもふた回りも成長していい表情をしています。医師会の先生方が若い世代を育成する大きな力になっていることを、大変心強く感じております。

最後になりましたが、研修医を育てる基盤となっている長崎市医師会、長崎県医師会の先生方には平素より多大な援助とご協力をいただいていることについて、深く感謝いたします。また、ぜひご師弟、お知り合いが研修医となる時は、初期研修先として全国に引けを取らないプログラムを持つ長崎大学病院をご推薦くださいますようお願いいたします。皆さまにお力添えをいただきながら、長崎県の医療人材の獲得に向けてさらに尽力してまいります。今後共どうぞよろしく願いいたします。

参考文献・参考URL

1) 厚生労働省HP

<http://www.mhlw.go.jp/>

2) 長崎大学病院 医療教育開発センター

<http://www.mh.nagasaki-u.ac.jp/kaihatu/>

3) 新・鳴滝塾

<http://www.narutaki-kyuku.jp/>

《ワード説明》

(※1) 県内17の初期臨床研修病院

長崎大学病院、長崎みなとメディカルセンター市民病院、長崎原爆病院、済生会長崎病院、上戸町病院、長崎北徳洲会病院、長崎医療センター、市立大村市民病院、諫早総合病院、長崎県島原病院、佐世保市立総合病院、長崎労災病院、佐世保中央病院、佐世保共済病院、長崎県五島中央病院、長崎県上五島病院、長崎県対馬いづはら病院